

## 開 議

○大沼 久議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、8番、鳥谷政一議員、18番、佐々木榮七議員の2名であります。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

なお、山形新聞社長井支社長からはパソコンの使用について、米沢日報記者からはカメラ使用についての申請があり、それぞれ許可いたしましたので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第2号をもって進めます。

### 日程第1 市政一般に関する質問

○大沼 久議長 日程第1、市政一般に関する質問を行います。

なお、質問の時間は答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

#### 内谷重治議員の質問

○大沼 久議長 それでは、順次ご指名いたします。

順位1番、議席番号2番、内谷重治議員。

(2番内谷重治議員登壇)

○2番 内谷重治議員 おはようございます。

私のこのたびの一般質問は、6月定例会に引き続きまして、元気な長井をつくるために、これから長井市はどのような施策をとるべきか、どうすればまだ閉塞感の残るこの現状を脱却し、地域活力を再生することができるのか、目黒市長より次のステップへのビジョンを私ども議会に、そして市民の皆様にご教示いただきたいと思っております。

ここで、通告しております質問項目の副題につきまして、若干ご訂正をお願いしたいと思います。元気な長井をつくるために「第2ステージは守り（緊縮型）から攻め（経営型）へ」としてしておりますが、これを「第2ステージは守り（緊縮型）も攻め（経営型）も」へのご訂正をお願いしたいと思います。

これは、例えば、ことし夏、全国じゅうを暑い夏、熱狂の渦に巻き込んだ全国高校野球夏季大会で、山形県初のベスト8に輝いた日大山形高校野球部の攻守のバランスがとれた野球のようなものというふうに思います。惜しくもあの早稲田実業に敗れはしたものの、長井南中出身の青木優選手の攻守にわたる活躍は、多くの長井市民に感動と勇気を与えてくれたと思えます。

目黒市政2期8年が崩壊状況であった長井市の財政を再建し、失いかけた地域活力、市民活力を再生の方向に導いたことに、多くの市民は心から感謝し、全国でもトップクラスの行財政改革により長井を救った長井市中興の市長として、後世まで語り継がれることと思っております。

今、長井市初め地方自治体を取り巻く情勢は、地方分権一括法の施行以降ここ五、六年で以前とは大きく変貌を遂げております。三位一体改革や新合併特例法等の大きな改革のうねりの中で、いよいよ深刻な社会問題となってきた少子高齢化による介護、医療等々の福祉扶助費増大に加え、教育改革や地域コミュニティの崩壊、なかなか地方まで波及してこない景気回復感な

+

どなど、まさに地方自治体は存亡をかけて、その行政運営の手腕が問われているというふうに思います。

特に三位一体改革の進展は、長井市のような財政力指数の低い自治体にとっては、一般財源の大半を占める市税や地方交付税で大幅な増収が見込めず、平成13年からの財政再建5カ年計画で大きな成果を上げた長井市といえども、依然として厳しい財政状況が続くと考えられます。

私は、さきの6月定例会において、元気な長井をつくるために、3年ないし5年の短期・中期ビジョン、そして10年の長期ビジョンについて、目黒市長の見解をお伺いいたしました。具体的には「2020年に向けての行政ビジョンと地域活力の再生について」と題し、総論として、次期行財政改革と市町村合併をどのように進めるのか、市民との協働のまちづくりをどう進めるのか、地域活力の再生をどのように進めるのかの3点について、ご教示いただきました。

平成18年度から実施している長井市自立計画は、第2次行財政改革として、協働の推進による新しい公共空間づくり、新しい行政のあり方について、基本的な考え方とともに具体的な方向性についてもご指導いただきました。

新合併特例法下での市町村合併についても、県の合併推進構想を踏まえながら、置賜が一つにつながる合併を目指すべきであり、県と歩調を合わせて将来を見据えることが正しいと考え、旨の見解をいただきました。

市民との協働のまちづくりをどのように進めるのかについては、「女性や高齢者、子供たちの声をまちづくりにも生かせるように、企画調整課を窓口として担当係長が受けるシステムを整備し、男女共同参画推進もあわせて推進していく」とのこと、また、まちづくり基本条例を生かす取り組みについては、「市民との情報の共有化を進め、協働の意義や啓蒙、ルールづくりにより、政策の形成過程にも市民の参加を図

っていきたい」との方針を示していただきました。

地域活力の再生をどのように進めるのかにつきましては、「2020年までに整備されると見込まれる高速交通体系を想定して、長井地域をさらに魅力アップ、バージョンアップし、地域の特性を生かす独自の地域づくりが必要だ」とした上で、「過去10年間の長井の経済成長率は確かにマイナス19.1%であったが、長井の製造業の高付加価値率、高い技術力を生かした地場産業を中心としたものづくりの振興と、さくら回廊や黒獅子まつり、フットパス事業などの新しい観光戦略による活発な観光交流等により、域内のGDPをふやすことで地域活力を再生すべき」との見解をいただいたところです。

このたびの9月定例会一般質問では、第2ステージは、「守り（緊縮型）も攻め（経営型）も」という副題をつけさせていただきました。これは、目黒市政2期8年が守りだけで経営型ではなかったという批判的な意味ではなく、例えば、日本国内はもとより、世界的にも行財政改革の先駆者として著名な上杉鷹山公の改革、これを見ても、50数余年かけて初めて完成されたものであり、時代は平成の世といえども、一朝一夕ではできるものではなく、目黒市長の行った職員の意識改革と人材育成、むだを徹底的に省き、コスト意識と費用対効果、PDCAの経営手法を駆使し、守りの緊縮型行政運営により、たった8年で崩壊寸前の長井市財政を救った後の政策、上杉鷹山公の改革でいえば、竹俣当綱に命じて行かせた殖産興業策、すなわち攻めの改革を意味するものであります。

9月定例会では、6月定例会で目黒市長から答弁いただいた地域活力の再生についての各論として、ものづくりへの支援策をどうすべきか、住んでよし、訪れてよしの環境に優しい観光交流型都市、そしてレインボープランの理念をまちづくりに生かす、以上3点について、さらな

るご教示をお願いするものであります。

まず最初に、ものづくりへの支援策をどうすべきかについてお伺いいたします。

一般的にもものづくりというと製造業を指すと思いますが、ここでは農業や伝統工芸品等も含めて、あるいはこれに商業や建設業など落ち込みの非常に厳しい産業にも、どのような支援策をとるべきかを考えるべきだと思います。

私は、行政が産業振興に寄与できる部分は限定されておりまして、あくまでも民間のお手伝い、支援策を講じることしかできないと思います。その施策を行政がとることにより、民業が活性化あるいは活性化しやすい条件整備に役立つことは多いのではないかと考えます。

6月定例会で市長が紹介されましたように、平成16年度の工業調査の全国統計では、付加価値率で長井市が全国133位、県内でもトップという高い技術とものづくりの経営基盤を擁していると思います。

しかし、市内製造業の多くは、下請中小零細企業であり、技術力はあっても独自の商品、技術開発能力は厳しい状況にあると考えられます。

大学等との産学官連携が必要なのか、または人材確保、人材育成などについて行政の支援を求めているのか、さらには企業立地のための規制緩和や優遇措置が必要なのか、制度資金や営業活動等の窓口を求めているのかなどなど、農業や伝統工芸品等の産業、あるいは建設業、商業でも、基本的には同じようなニーズやシーズがあるのではないかと考えます。

これから長井をものづくりのまちとして磨きをかけるのなら、ぜひ、例えば、仮称ではありますが、ものづくり支援センターなどの行政がソフトでお手伝いをしていけるような専門の主管課を置くべきだと思いますが、いかがでしょうか。市長にお伺いいたします。

次に、「住んでよし、訪れてよしの環境に優しい観光交流型都市へ」についてお伺いいたし

ます。

住んでよし、訪れてよしのまちづくりについては、以前に観光交流の面から2度ほど類似の質問をしておりますが、このことについても目黒市長から、「6月定例会において、さくら回廊やフットパス事業などの新しい観光戦略で観光客をふやしながら、従来のあやめ、つつじ、黒獅子まつりなども加えながら、一步ずつ前進していきたい」と答弁をいただいております。

私は、さらに今ある観光資源を生かすという視点から、日本福祉大学の中村先生のご発言のように、フラワー長井線を観光鉄道に衣がえし、長井駅を中心としてまちなか観光とフラワー長井線に乗って周遊する置賜周辺の広域観光ルートを整備する必要があるのではないかと考えます。

フラワー長井線はとりあえず平成22年までは存続が決まっておりますが、現在のような懸命に努力しても今後も経営赤字が続くことは、少子化の中で明らかだと思います。フラワー長井線という鉄道は、まちの大きな財産で、子供たちの教育や高齢者を中心とした交通弱者には必要不可欠なインフラであります。フラワー長井線に乗って「水と緑と花のながい」のリピーターとなるような交流客をレインボープランに代表される環境のまち、フットパスが楽しめるまちなか観光のまち、もてなしのまち長井として目指すべきだと思いますが、いかがでしょうか。

この項の最後に、レインボープランの理念をまちづくりに生かすについてお伺いいたします。

レインボープランについては、私から今さら申し上げるまでもなく、循環という理念による土と農と市民の暮らしを「いのち」でつなぐ事業であり、食と台所をつなぐ市民の取り組みが全国的に高く評価され、先ごろは日本農業賞「食の架け橋賞」等も受賞されました。

やはり、さきの6月定例会において、環境教育などの修学旅行の誘致を検討すべきとの私の

+

再質問に、目黒市長からは、「レインボーの市民農場、コンポストセンターを見てもらいながら、レインボーとはどういうものなのかを学んでもらい、教育の中で生かしていくこともやるべきだ」と答えられております。私も、まずレインボープランの理念を環境教育の場として、中高生あるいは大学やNPOの研修の誘致に、レインボー協議会と協働して、行政も力を入れて誘致すべきだと思います。これから長井ダム関係の工事も収束に向かうわけですので、市内の旅館やビジネスホテルの協力も得ながら、ぜひ早急なプログラム作成と学校関係、エージェント等へのアプローチ、誘致検討をすべきと考えますが、いかがでしょうか。

また、昨年度よりレインボープラン協議会では、レインボー農産物を積極的に域外にも売り出そうとの方針転換があったと聞いておりますが、現在のコンポスト堆肥も量的な課題、質的な問題等もあるというふうに聞いておまして、市内の希望農家が必ずしも使えるような状況ではなかったということがありました。現状はどうなっているのでしょうか。お伺いしたいと思います。

さらには、中央地区内で協力いただいている家庭は、どのような形で還元しているのか、行政はどのような関与をしているのか、お伺いしたいと思います。できればコンポストも土壌改良剤的なものから肥料として有機肥料の成分を増加し、市内の多くの農家で使うことができるようにすべきだと思いますが、いかがでしょうか。

レインボーの理念をまちづくりに生かすためには、農業や環境の面にとどまらず、例えば製造業ではゼロエミッションのような形で推進していくことも必要と考えられます。同様に商業面やサービス業でのリサイクル、リユースなどの推進により、レインボーの理念を具現化すべきと考えますが、いかがでしょうか、お伺い

いたします。

最後に、大きな質問項目2の「市民の立場に立った血の通った温かい市役所のさらなる構築を」についてお伺いいたします。

やはり上杉鷹山公の有名な「伝国之辞」に示された政治理念、鷹山公の心にあるもの、それはひたすら民を思い、民を愛する至情であったと言われております。現代の私たち政治、行政にかかわる人間は、その理念を忘れてはならないと思います。

私は、前平市政の8年間は残念ながらほとんど長井に住んでいませんでしたので、どのような市役所だったのか、市民は市役所にどんな感情を持っていたのか、市長と職員と市民の意思疎通はどんな形で図られてきたのか、また、市民の市役所サービスに対する満足度は高かったのか低かったのか、よくわかりません。私が知っているのは元齋藤伊太郎市政の11年間と目黒市政の8年間だけであります。

齋藤市政は昭和53年から平成2年までですので、現在の目黒市政とは時代も財政状況も大きく異なりますので、比較するのは適切でないのかもしれませんが、平成11年に議員として職員に頻繁に接したときに感じた印象と、現在、平成18年、職員に接したときに受ける印象は明らかに違っていると私は思います。

財政再建5カ年計画や現在の自立計画を通して、職員の意識は大きく変わったと思います。

しかし、目黒市政の8年間は、守り、いわゆる緊縮型にせざるを得なかったことから、職員の間には、お金がないから市民に対しても慎重な姿勢をとらざるを得なくなっているのではないかとこのように考えております。

これからは市民との協働で、行政でなくても民間でできることは民間に任せていく、そんな小さな自治体にすることが求められておりますが、市役所が市民一人一人を大切にし、お金を使わなくても満足度を上げるサービスの向上

に努めることが必要だと私は考えますが、いかがでしょうか。この基本原則を職員に徹底させながら、市民の協力と協働で新しいつくる改革、市民本位の市役所をさらに構築すべきと考えますが、いかがでしょうか、お伺いいたします。

これで私の壇上からの質問は終了いたしますが、最後に、この場をおかりいたしまして、市民の皆様、また、議長を初め議会の皆様並びに市長、当局の皆様、一言ごあいさつを申し上げさせていただきます。

私は、まことに僭越ではありますが、この11月に執行される長井市長選挙に立候補することを決意し、今9月定例会の最終日に辞職させていただきたいと考えております。7年5カ月の間、議員として大変皆様にお世話になり、まことにありがとうございました。特に議員の諸先輩の皆様には若輩者にもかかわらず何かとご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、厚く感謝申し上げます。

最後になりますが、長井市のますますのご発展、市議会のなお一層のご隆盛と市民初め皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。お礼のあいさつとさせていただきます。ご厚情まことにありがとうございました。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 内谷議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず、守りも攻めもということですが、私も全くそうだと思っております。守りだけでは、それはやっぱり萎縮をしますし、元気が出ません。守るべきところは守りながら攻めていく。攻めも守りも、これは攻めながら守るか、守りながら攻めるか、その時々状況によりますが、問題にもよりますが、攻めも守りも大事だと、それを組み合わせていくことが私は大事だと思っております。

そこで、ものづくりへの支援策をどうすべきかということですが、私は、日本の国

というのは、これまでやっぱりものづくりで稼いできたと思います。そして、戦後です、特に、長井市ものづくりでこの長井市を支えてきた。郡是を最初に誘致したのは長井市でありますし、それから、昭和17年に東芝を誘致してきたのは当時の予算の7割、蒲生副議長が申されましたね。これもものづくりのまちにしようという熱い熱意だったわけですし、戦後も協同薬品工業、これを誘致してきた。それから、平成12年には本社を、マークさんを埼玉から長井に来ていただいたということもあると思うんです。

そして、ものづくりを支えてきたのは、日本の場合には貿易立国であります。そして何よりも資源がない日本が教育立国として人材を育ててきた。ものづくりをする。貿易をする。それも人間でありますから、人材を育ててきた教育立国であろうと思います。それに現在はやっぱり国としていうならばグローバルスタンダードでありますから、世界的なトップにならなければいけない。科学技術立国であることが私は求められているのだらうと思います。

ものづくりのいわゆるナノテクノロジーと言われるような極めて精緻な技術等はもはや日本が1番であることは、中国も、あるいはアメリカも、世界も認めているところでありますし、今後、科学技術立国に関して言えば、国と地方はある程度分担をしていかざるを得ない。

国はある意味でテーマを絞って、宇宙なら宇宙産業に、あるいは私はバイオエタノールなんというのは、これはこれからの石油にかわる。トウキビや生物からアルコールをとって、そしてそれを燃料に使うと。今、ブラジルでは新車の販売台数の半分はバイオエタノールを使っているということがありますし、アメリカは国を挙げて、自分の石油のあれにふたをして、バイオエタノールに国を挙げています。日本も沖縄振興等でサトウキビやトウモロコシに相当バイオエタノールをとろうということで頑張っている。

+

新潟県なんかも米でどうしようかと、燃料をつくろうという動きになっている。しかも生物はすべて二酸化炭素を吸収して酸素を出すわけですから、環境に非常に効果があるという、いいことづくめとは言いませんけども、いいことがたくさんある意味で、こういったものを国はやるべきであって、地方の場合にはそれほどやっぱり、その重点項目に金をかけるというのは、県も有機なんかでやりましたけども、企業に比べたらかなわないぐらいでありまして、国がいわゆる実用化までやるというのはなかなか大変だろうと私は思っております。

したがって、チャンスがあればやっぱり先人に学んで、郡是や東芝や協同薬品や、あるいはマークのように、私は、ブリヂストンさんにぜひひとつこっちに来てもらいたいということをお願いをしたい。これから一つの大きなテーマではないか。あそこはやっぱり世界のタイヤのトップメーカーですよ。20%。ミシュランにも勝ってるわけです。しかもあれは消耗品ですね。5年から7年でなくなるわけですから、次々と。むしろ産業廃棄物の問題はありますが、しかし製造はしていかなければいけない。人員も男子型企业であります。土地が非常に多く要る。30町歩から60町歩ぐらい。平均ですね。しかし、ここも道路がついていれば、今、ある程度インフラさえあれば、あとやっぱり協力していただいた農家から、子供や孫や、あるいは推薦する人を企業に採用しますよという条件でも設ければ、私は、今の値段で、時価で売るなり貸すなりしてくれるのは可能だろうと。そのときに中に入るのは、不動産屋さんではなくて、大きい目で信用のある私はやっぱり行政ではないかと思ひまして、日鍛バルブもそうですし、いろんな企業誘致はこれから、しかも中国に行って少し反省も生まれておりますから、企業にとっては、私は必要なのではないかというふうに思っているところであります。

そういった仕事を従来もちろん、地元の企業の皆さんに金融的なお世話であるとか雇用の問題であるとか、ある企業は来年、新卒をぐっと倍にしたい、あるいは今すぐ100名ぐらい欲しいというのをご相談にも市役所にもおいでになる。商工観光課や商工会議所や、あるいは地場産センターや、こういった今の体制をさらに連携を密にしていけば十分にできると私は思っておりますし、何よりも私のこの8年間で思ったことは、組織は一遍つくってしまうと、やっぱり組織を維持するという事になっちゃって、いわゆる境界をどこに置くか、自分たちが主管課か主管課でないかとか、できるだけプロジェクトチームでやる方が私はいいと思っております。そういった意味で、新しい組織をつくるとなかなか今度はそれをスクラップ・アンド・ビルドするには大変でもありますから、慎重でありたい。率直なご提案ですが、私はものづくり支援センターなるものをつくるよりは、今の体制で、しかもリーダーシップを持って、議会の皆さんや我々がやっぱり汗をかくことの方が、みんなが力を合わせることの方が、それが私はまず先ではないかと、それが小さな政府、効率的な政府につながっていくのではないかとこのように思っているところであります。

次に、住んでよし、訪れてよしの環境に優しい観光型都市についてであります。私はやっぱり観光交流の拡大については、今の少子高齢化時代に必要不可欠なものだと思っております。6月も申し上げましたが、3つなり5つなりの最重点の中の一つの項目だろうと思っております。

今の観光の流れは、ご案内のように、団体旅行というよりはグループ旅行、あるいはバス旅行を団体でやるよりは、ローカル線に乗って、あるいは歩く旅行、歩く楽しみを見出すと、そういった変わりつつあるということも留意しなければいけないと。農家の民宿等も相当程度

やっぱり伸びておりますし、今後も国策としてこれを伸ばしていこうということになっておりますから。

そういった中で山形鉄道は、各エージェントさんから比較的注目されつつあると私は思っております。長年の先人の努力の跡であります。例えば来年の4月から6月にJR東日本で置賜花回廊として、もちろんこの桜とか白つつじとかあやめもあります。それだけでなく置賜全域のやっぱり花のデスティネーションキャンペーンを受けて、JR東日本等は力を入れていきたい。例えば海外でも新潟からおりた皆さんは、置賜をぜひ周遊して仙台に行って帰っていただくとか、仙台から行く場合は置賜を必ず通っていただけるようにしたいというようなあれを持っておりますし、実際にも昨年度はさくら回廊で、17本の列車で363人受け入れてまいりましたが、ことしは40本、2.5倍で、人数も1,397人、4倍であります。あやめまつり等も31本の1,463人の受け入れをしてきたという山形鉄道さんからのお話もご報告もありますから、私はやっぱり観光に力を入れ、その観光資源としてフラワー長井線をしっかりと守って育てていくということは、内谷議員ご指摘のとおりだと思っております。

ただ、現状も厳しい状況は続きますし、少子高齢化ですから、通学定期の収入が少しずつ減ってくるということもありますので、やっぱりそれは長井線利用拡大協議会あるいは置賜観光開発協議会などと連携をしながら、観光に生かしていく、育てていく、さらにエージェントの皆さんとも力を入れていくということが必要だろうと思っております。

ご指摘の修学旅行の件ですが、今まで修学旅行というのは、子供たちの希望もとりますが、見たことのない東京とか大阪とか関西とかね、あるいは北海道とか、実質決定権は学校の先生にあると言ってもおかしくないわけでありまし

て、このごろ中国とか、ちょっと反省もありませんども、海外へ行くなんていうのもあるわけですが、我々がPRをするということは大いに必要だろうと思っております。ご指摘のように環境教育等の面でも、あるいは循環という面でも、あるいは減農薬、減化学肥料、環境保全型農業を実践しているという面でも、レインボープランは高い評価を今まで得てきたわけでありまして、これを見ていただくということは必要だろうと、そういう努力はしなきゃいけない。きのうも全国農業交流大会で西置賜に、岩手県から沖縄の皆さんですね、40数名おいでいただいて、レインボープランも見てくださいました。いろんな面で全国にPRをしていかなければいけない。

ただ、そのほかの要素もやっぱり修学旅行等ありますから、これは第一義的には山形鉄道なり会社がいろんな面で頑張ることではありますが、我々も単にレインボープランがあるからおいでなさいというのはなかなか大変かなという気がいたしているところでもあります。もっとやっぱり一つ二つ組み合わせていかなきゃいけない。魅力を組み合わせていかなければいけないのではないかとこのように私は思っているところでもあります。

レインボープランの理念をまちづくりに生かす。ご指摘のとおりだと思います。しかし、私はレインボープランの皆様にも申し上げているのは、「レインボープランで全部長井市がいくか」というと、そうはいかんぞ」ということははっきり申し上げております。身の丈に合ったとか、具体的に言えば財政のバランス上、それはやっぱり観光にも力を入れなきゃいけない。社会資本の整備にも、高規格道路にも力を入れなきゃいけない。防災にも力を入れなければいけない。福祉ももちろんであります。そういった全体のバランスの中でやっていくということが私は必要なのではないかと。レインボープランがいい理念であるとは思いますが、しかし、

+

私は、長井はあえてキャッチフレーズをつけるなら、「水と緑と花のながい」を、あるいは「ものづくりのながい」をというところの方が、あるいは観光交流をもっと進めようというところの方が、私はやっぱりインパクトがあるのではないかと、重点を置くべきではないかというふうに思っているところであります。

市民の立場に立ったということではありますが、私も市民の皆さんが主役、つまり民間の皆さんが主役、税金を納めていただける皆さんが主役だと、その皆さんの気持ちをしっかりととらえて、そしてある程度優先順位をつけながら、行政がしっかりとサポートをしていくということが根本だと思ってまいりました。したがって、市民の皆様にもまちづくり基本条例等についても公開をし、公募をし、意見聴取をし、審議会等でも大いに議論していただき、また、政策過程での情報公開も市民の皆様の参画をお願いしてきたところであります。

まさに市民の皆さん、民間の皆さんの持っている力を発揮していただくために、協働のまちづくりの中で、特に若い皆さん等にはNPO等にも積極的に参加していただく。長井市はもう8つNPOがここ数年でできたわけでありまして、もっともっと福祉の分野等もあればいいなという部分もありますし、あるいは環境の分野もあるでしょう。防災も分野もあるかもしれない。そういったNPOの皆さんと一緒に、市民の立場に立った、市民がまさに主役の、市民の皆さんの声をしっかり聞きながら、しかし選択と集中ということもありますし、政策決定過程を明らかにして、ご協力をいただいくということが私にとっての市民の立場に立った、血の通った温かい市役所のさらなる構築ということなのではないかというふうに思っております。

最後に、内谷議員が決意を述べられました。大いに頑張ってください。ご健闘をいた

きたいと思います。私は、内谷議員だけではありませんけれども、私自身の一つの信念を申し上げるならば、やっぱり行政も信頼されなければいけない。人間もそうであります。やっぱり約束は守る。1対1であろうと、公開の場であろうと、よく考えて、した約束は守る。今できなかったら、「将来します」と簡単に言わないで、「将来は検討します」ぐらいにして、次の議会で応援しますと言われると、これはどうかかと私も思っちゃいますから、やっぱり今の会議の中で最低限の情報の中で最大の情報を集めながら、約束を守り、そして一つずつ前に進んでいくということの方が大事なのではないかと。少なくとも私は大した取り柄もありませんし、わきも甘いし、しゃべり過ぎるし、態度もでかいし、いろいろありますが、聖人君子であることではないことはもちろんであります。やっぱり約束を守りながら、できない約束は余り軽々しくしないようにして、信用、信頼が一番大事ではないかと思ってやってまいりました。ぜひひとつ内谷議員もご健闘をいただきますよう心からご期待を申し上げます。ありがとうございました。

○大沼 久議長 2番、内谷重治議員。

○2番 内谷重治議員 どうもありがとうございました。最後は励ましまでいただきました。感謝申し上げます。

再質問、時間の許す限りお願いしたいというふうに思っております。

まず最初に、地域活力の中でのものづくりということなんですが、市長も最後におっしゃれましたが、企業誘致、確かにマークさんも誘致企業だというふうにももちろん言えるわけですが、特に、今、市長が進められようとしていますブリヂストンのような、今は関連企業がなくても、将来的に非常にすそ野が広がるような、そんな企業を持ってこれたら最高だなと。ただ、長井の場合は既に製造業として多くの会社がありま



すので、やはり給料体系であったり雇用関係がどのようなそういった企業の皆様に影響するかと、その辺はうまく調整しなきゃいけないと思いますが、何せこの10年間でマイナス19.1%ですから、これは本当に深刻な問題だと思います。

そういった目で長井市内を見てみますと、あそここの会社もいつの間にかなくなったと、ここもつぶれたのかと、この人はもう夜逃げしたとか、そういうのがいっぱいあるわけですね。あるいはようやく求人倍率も1.0に限りなく近い、前後してる状況なんですけども、実態の雇用はどういうふうになってるか見ますと、大変な低賃金なわけです。派遣の仕事が大部分ですし、市の方で例えば民間にお願いしたといっても、当初は期待してたNPOでリタイアした方とかボランティア的な考え方で行政の仕事を手伝っていただけるといふ予測とは違って、実際は仕事がないのでやっぱり働かざるを得ないと、そんな状況にもなってますし、市長おっしゃるように、組織というのはやっぱりあんまり膨らませるべきじゃないと。私ども議会で行政視察しても、必ずその市役所に行ったらどんな組織体系になってるか大体の人が見ると思うんですが、その町その町の一番力を入れてるところに組織というのは出てくるんですね。例えば少子化、子供を大切にするんだったら子供課とかあるわけですね。

そのような形で、実際企業を回ってみますと、行政に対してこれをやってもらえたらありがたいなということはあるんですよ。ただそれを聞かないと、製造業の方もわざわざ行政に言わない。それだけのことであって、これはいわゆるシーズといいますかね、潜在的な需要とか、いろいろあると思うんですね。そういうものを掘り起こしながら行政が製造業に支援策をとっていくということは、これは一番重要なことじゃないかと私は思いますので、その点についてもう1回市長の方からご答弁いただきたい。

これを1点と、もう1点、続けて言わせていただきますと、先ほどレインボープラン協議会のお話もあったんですけども、確かに財政的な問題がありますから、もう今はレインボー協議会ということでNPOも関連で持っておりますから、行政でそんなにお金をかけなくても、彼らに頑張ってもらいたいというのは確かにあると思います。

ただ、観光交流客をとにかくどんどんふやすんだということ言えば、観光と交流の違うところは何かといいますと、やはり交流というのはリピーターなんですよね。長井のファンになってもらって、長井に去年行ったけどことしも行きたいと、あるいは春に来たけど長井の秋を見てみたいと、そういうお客さんがどんどんふえるようなことをしていかないとだめなんです。

そういった場合は、あやめとかつつじとか、そういう観光もあるんですが、やはり人間とのつながりという意味では、観光プラスそういった環境の、あるいはレインボーという考え方を研修できるような、そういうプログラムを協議会だけじゃなくて行政も一緒になって考えていくということが必要なんじゃないかなというふうに思います。その点について、市長、もう1回ご答弁。この2点お願いいたします。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 ニーズ、それからシーズ、内容議員のお話でいえば潜在的な需要というんですか、まだ眠っている、あるいはなかなか表へ出てこない。企業の皆さんが行政に求めていらっしゃる部分は、それは幅広いと思いますね、確かに。それはしかし、ものづくり支援センターというのを新たにつくったからおいでになるかというものではないわけでありまして。ある意味で、相談に行けば、真摯に、あるいは的確に話に乗ってもらえると、そういう人がいる。例えば商工観光課に具体的なYさんがいる。そういうとこ

+

るでYさんのところに行くのがやっぱり多くなってくるのだろうと私は思うんですね。

そういった意味では、なるべく組織というのは、つくっちゃうと後が大変ですし、調整するのも大変ですよ、はっきり言って。市長になられたらわかると思いますが、やっぱり拡大再生産をしていくんだよね、組織というのは。だからそういう面で、私は、ニーズやシーズの要望にしっかりおこたえする、あるいは相談窓口の看板を男女共同のときにもかけるというようなことは必要でもありますし、それは行政もやりますし、今、商工会議所等も企業を回って、むしろ積極的にやってるわけで、相談所長なんていう方はやっぱり企業を回っていらっしゃるわけだし、そういったところとしっかりと連携をしながらやっていくことで、行財政改革に余り逆行とは言わないけども、沿ったやり方の方がいいのかなという意味で、私はやっぱり慎重にならざるを得ないというふうに思っているところであります。

レインボープランのことも、私、レインボープランの方にさっぱり応援しないでないかという誤解があるから総会で申し上げました。レインボーコンポストセンターは、予算書を見ていただくとうまくわかるように、2,800万円から約3,000万円、毎年、維持修理からかけてやってるわけです。これはやってるところほかにないでしょう。少なくとも全国に。あるいはそれに専任の職員の方が二、三名、ウン千万円の支援もしてるわけですから、あとは、そろそろ10数年たったので、一番やっぱりもっと出ていかれる。市民農場の収益もおありでしょうし、あるいは虹の駅もそうでしょうし、それ全体を含めてNPOにされて、そして総務とか企画とか講演だとかというのをそちらから回していくと。全体がNPOにしないと、会社でいえば一番もうかるところだけ別会社をつくっておいて、そして総務とか企画とかというところは行政から金を

引っ張ろうという話では、私は全体のNPOとしてやっていった方がはるかにいいのではないかなというようなご提案をしてるわけで、またそれが徐々に自立をしていくということなわけですから、そういった意味で、レインボープラン推進協議会の皆さんとも協力をしながら、もっとやっぱり、そろそろ、内谷議員の言葉を言えば、守りから攻めじゃなくて、守りも攻めもですが、攻めの方向に行く時期なのではないかということをお願い、全体的にやっぱり進まれた方がいいのではないかとというふうに申し上げてきたところでありまして、そういった皆さんと協力をしていくことは大事だと思えますし、そういったレインボープランをまさに循環のまちづくりの中で、環境のまちづくりの中でこれからも大事にしていくというふうにやっていきたいと思っております。

○大沼 久議長 2番、内谷重治議員。

○2番 内谷重治議員 ありがとうございます。今回はぜひこういうふうに取り上げていただきたいということよりも、この先の市長の考え方、どういうふうにしたらいいかお聞きしましたので、これの再質問はしないで、次の方に移りたいと思いますが、きょうの朝日新聞の「天声人語」にこういう記事がありました。私もちらっとしか見てこなかったんですが、建築家の内藤廣さんによれば、「駅は帰っていく場所でもある」と。「地方の再生があるとすれば、駅から始まるしかないが持論だ。駅ほど多様な人が訪れる場所はない。駅をよりどころに町をよみがえらせ、町を離れようとする若者の心に働きかける。駅は町づくりの序章でもある」というような一節が載ってたんですが、私も長井というのは、市長の考えと私も同じように、ものづくりのまちをこれから磨きをかけるという一方で、やはり観光、交流で人にどんどん訪れていただいて、お金を落としていただいて潤うような、そういうようなまちを目指さなきゃいけないん

じゃないかと。

そういった場合、フットパスを今やってるわけですね。確かにフラワー長井線通じて、去年、おとしよりはことしずっとふえましたし、これからもっともっとこれをふやそうとするわけなんですけど、今やってる街路事業、ソフトの事業の予算、県から2年連続でいただいでるわけなんですけども、これから中心市街地、まちなか観光も含めて、どのような方向に持っていくのか。

あと、私が先ほど一般質問の壇上でお願いしたことは、フラワー長井線を観光鉄道に衣がえしたらいいんじゃないかと。それは単に観光客を乗せるということじゃなくて、観光客が乗るような、そういった観光鉄道にすべきだと。いわゆる一つには、いろんな考え方あるんですけども、長井のまちなかをとにかく観光の目玉にしようということで、長井市は少なくとも観光計画はそっちの方向に走っていると。ただ、フットパスだけで本当にお客さんが来るんですかと。それは1,000人、2,000人は来るでしょう。でも1万人、2万人、あるいは10万人、20万人来ないと、やはり産業としてはなかなか厳しいんじゃないかと。

そんなことで、この長井駅を中心として、あるいは本町の街路事業を、一つの契機になるわけですから、どのようなまちづくりをしていったらいいか、ぜひ市長のお考えをお伺いしたいと思います。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 私は、もちろん行政で、フットパス等というのは、あれはまちなかを歩いていただけこうということですよ。それから、6月18日に全国から300人の皆さんに来ていただいて、事例発表で勉強しながら野外の交流パーティーをやり、暗くなったときランタンで歩いていただいて、やっぱりやませ蔵なんていうのは夜歩くとすてきですよ。本当に幽玄の世界にいる

みたい。あそこの東洋酒造でのコンサートもきき酒会もすばらしかったし、蔵でのショットバーも入り切れない、一時は。私は玄関番して飲み過ぎましたけども、うれしかった。こういう私は、イベントという言い方はおかしいかもしれませんが、そういう機会をとらえて長井を発信していくことだと思うんですよ。

そういった意味では、祭りもそうですね。桜だって9万人が15万人という、それから黒獅子もことしはあそこの駐車場に栈敷席を設けながら、6万が6万5,000人になった。それから、あやめも市民の皆さんが帰りつつあると。後で谷口議員からもお話があると思いますが、やっぱり市民の皆さんが今まで行かなかったところが30%以上ふえてくる。37%だったかな。そういうしっかりした、発信。

これからだって大江健三郎さんがおいでになる。もう券ないそうですよ。それから、あれもそうだな。太田裕美さん、大野真澄さん、ああいうコンサート、やっぱり中高年の皆さんが、あつという間に売り切れだそうです。

それからオペラもかなり全国的になって、ドイツ大使館の皆さんが来る。ドイツからも来るんじゃないかと、企業の代表者も来る。テレビカメラも入ってくるなんていうことになって、やっぱりそういう長井のすばらしさのところから全国からおいでいただく。

ROBO-ONEもやります。マイクロマウスの全国大会もやります。いろんな面で、あるいは長井から青木優君のように、あれは将来プロ野球選手になれると思いますね。イチローとまではいなくても相当。やっぱり長井から頑張っていただいでる。長井高校を出た荒川さんはブリヂストンの2兆7,000億円の社長になられた。山形新聞の社長も長井から黒澤さんがなられておると。人材のまちであり、その皆さんが長井を全国に発信していくわけですから、いろんなイベント等も組み合わせてやっていくと

+

ということだろうと思います。

そのまちに魅力がなければ訪れない。今まではバス旅行だったけども、今度はゆっくりローカル線に乗ってというグループ旅行も多くなるから、これは第一義的に山形鉄道さんが、通学列車だけの現状では少子高齢化で苦しくなるから、観光交流に力を入れると。駅ごとに花畑をつくるのか、あるいはイングリッシュガーデンをつくるのか、それが観光客に結びつくのか、それは山形鉄道さんが検討をしながら我々も協力するということだろうと思いますが、鉄道は鉄道で確かに従来の人が行き交う場所ではありましたけども、あらゆる意味で、イベントをやる中でも何でも、やっぱり長井に来てもらう。あるいは長井を発信する。これが一番の私は観光交流に力があるものだというふうに思っております、複合的にすべてのものをしていくと。

そういう意味では、ことしは比較的恵まれましたし、花火だって置賜で一番だねってあるマスコミの人が言われましたよ。米沢さん、悪いけどもね。800万、大事ではないんです、金では。やっぱり尺玉がどんどんどん重なって上がってくるということですね。これまた数十万人の人が来ていただくわけですから、それも近隣からも来ていただいているわけですから、こういったことが私は観光産業なのではないかと。まず住んでる人が楽しみながら、自信を持って、そして全国に発信して、全国から、いいまちだなと、行ってみたいな、楽しみたいなと思って、オペラにも来ていただく。のど自慢にも出演していただくと。いろんな面で考えられる。

私は、お金がないからできないなどというのは金輪際言ったことありません、今まで。お金なんかなかった、生まれたときから。でもこれは、お金というのは稼ぐものだと私は思ってますし、両親からそう教わりましたし、稼ぐというのは身体的な稼ぎもありますが、やっぱりこ

れからは知恵ですよ。知恵と度胸で稼げるものだと思いますし、そういったお金も有効に利用しながら自信を持って全国に発信していくということが、私は観光産業の一番の中心だろうと思っております。

○大沼 久議長 2番、内谷重治議員。

○2番 内谷重治議員 ありがとうございます。

時間もないので、最後の再質問になりますけども、市民の立場に立った血の通った温かい市役所、このさらなる構築をということで最後に上げさせていただきました。市長からの答弁いただいたとおりになんですが、例えばですね、私ども会派で7月に茨城県の牛久市というところに行ってみりました。ここは市民満足度調査というところをやっているんですね。助役さんが出てくださいますして、いろいろお話をお伺いしたら、市民にいろいろアンケートをいただいて、それを実践したと。ただ、非常に財政的に豊かなところでして、お金をかけてそれをやったんですよ。ですから、長井の場合はこうはいかないなと私は思ってきたんですが、やはり基本はお金なくても市民に納得していただけるような、あるいはサービスの技術だと思いますけどね。そういったものをやはりこれからもっともっと磨く必要があるんじゃないかと。

例えば体制なんかも、長井ではとってないんですが、総合窓口制度的なものもありますし、いろんな悩みとかいろんなことを行政に求めてきた場合、市民相談室、困り事相談ということじゃなくて、やっぱりそれを、ベテランがいっぱいいらっしゃるわけですから、そういった方が丁寧に一人一人のケースについて、満足いくようなサービスを提供できる。そういうような市役所にしていくべきじゃないかなというふうに私は考えているところです。

最後に一言だけ市長からそのことについてお話をご答弁いただいて、私の質問を終わりたいと思います。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 組織としては、今、市民相談室というので相当程度ご相談には応じているつもりであります。総合窓口等が必要なのかどうかについては議論してみたいというふうに思います。

内谷議員ご指摘のように、市民の皆さんが今、何を求めて、みずからどう生きようとしているのかということについては、常に座談会やいろんな面でお話をお聞きしてきたわけでありまして、改めてアンケートをとる必要があるかどうかも含めて、それはやっぱり内部でもう少し議論をさせていただきたいと思っているところであります。

### 蒲生吉夫議員の質問

○大沼 久議長 次に、順位2番、議席番号17番、蒲生吉夫議員。

(17番蒲生吉夫議員登壇)

○17番 蒲生吉夫議員 おはようございます。

1日目の2番目になりますが、通告しております3点についてご質問を申し上げたいと思います。

最初に、8月15日、小泉首相の靖国神社参拝をどう考えるかについてお伺いをしたいと思います。

このたび通告しているこの項目は、目黒市長の政治信条、歴史認識など考え方にかかわることであり、本来もう少し早い時期に質問しておいた方がよかったのかもしれませんが、その機会を見つけることができませんでした。しかし、昨年の6月定例議会において、小泉首相が靖国神社を参拝しないよう求める請願が提出されたこともあり、常任委員会において質疑され、私は本会議において賛成の討論をしたのは記憶に

新しいところでは。

このたびこの問題を取り上げた背景には、小泉首相が就任して8月15日の靖国参拝が初めてであること、さらに右翼団体構成員により鶴岡市の加藤紘一氏の実家に放火されるという事件も靖国問題に対する言論封殺を目的としたようであり、暴力に訴えるなど許しがたい事件と考えたからであります。

市長の任期は12月14日までの3カ月余りとなりましたが、市長職を退いても政治活動を続けるとのことです。みずからの政治信条に基づきお答え願いたいと思います。

私がこれまで読んだ資料の中で一番うなずけるものは、新書で「靖国問題」という本があります。東京大学大学院総合文化研究科教授の高橋哲哉さんが書いたものですが、大変参考になりますので、お勧めしたい1冊でございます。

さらに靖国問題に興味を抱かせることになったのは、8月12日付の朝日新聞で靖国神社の関連施設の所在地が地図に掲載されたことに対して、靖国神社から謝罪を求めることと取材を許可しないとの抗議文が出されたというようなことですが、神社の関連施設が掲載されたことで、身辺保護の立場から、極めて行き過ぎた報道とこのことのようにあります。しかし、真意はここにはないようです。私もこの記事をスクラップしていたのでありますが、大見出しで「靖国神社懐寒し」とあり、周辺の小見出しでは、「戦争世代亡くなり細る 寄附 リストラ進める」「合祀やめて 遺族提訴 日本・台湾9人靖国相手取り初」などとともに、靖国神社が所有する主な不動産などを掲載していましたが、報道機関として至極当然と私は感じました。靖国神社としては何ゆえにこのような報道に過敏になっているのか、逆に関心を持ったところであります。

そこで、最初に、靖国神社とは、靖国問題とは何かということです。

+